

会 議 録

会議の名称	令和6年度第2回行田市行政改革推進委員会	
開催日時	令和7年2月12日（水） 開会：午前10時00分　閉会：午前11時20分	
開催場所	行田市役所本庁舎3階　305A・B会議室	
出席者氏名	新井啓介委員、金井陽一郎委員、北木裕委員、佐藤範夫委員、塩原正英委員、寺山昌文委員、長岡幸雄委員、橋本兼一委員、福原紀明委員、村島泰子委員	
欠席者氏名	飯塚祥江委員、ビチャイサエチャウ委員	
事務局	岡登総合政策部長、川上企画政策課長、伊藤企画政策課主幹 西尾企画政策課主査、増子企画政策課主任	
会議内容	(1) 行田市行財政集中改革プラン2022の進捗について (2) 今後のスケジュールについて	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 行田市行政改革推進委員会委員名簿 ・ 【資料1】 行田市行財政集中改革プラン2022 （令和6年度上半期の進捗状況） ・ 【資料2】 スケジュール 	
その他必要事項	傍聴者　1名	
会議録の確定	確定年月日	主宰者氏名
	令和7年2月26日	新井啓介

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開について、本市では「附属機関等の設置及び運営に関する基本指針」に基づき、審議会・委員会等において、個人情報を取り扱う場合を除き、原則公開することとしている。本日の会議では、個人情報を取り扱う案件がないことから、公開とさせていただきます。 ・会議録については、発言者名を明記の上、要点筆記により作成し、後日、市役所 2 階の市政情報コーナー及び市ホームページで公開させていただきます。 ・それでは、次第 5 議事に移らせていただく。 ・議事の進行は、行田市行政改革推進委員会設置条例第 5 条の規定に基づき、新井会長に進行をお願いする。
新井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただきます。 ・はじめに、議事（1）「行田市行財政集中改革プラン 2022 の進捗」について、事務局に説明をお願いする。
事務局	<p>（1）「行田市行財政集中改革プラン 2022 の進捗」について、資料 1 により説明</p>
新井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議題は、「行田市行財政集中改革プラン 2022」の令和 6 年度上半期の進捗状況である。事務局から説明があった取組項目やその他の取組項目について、委員の皆様からご意見をいただきたい。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目（12）「さまざまな行政課題に対応できる職員の育成」に関して、職員提案制度についてだが、民間企業で勤めてきた経験からも職員からの提案は一般に少ないものである。指標には「提案人数」等あるが、これは、自身が所属する部署によっても提案するモチベーションに差があると考えられるが、部署に偏りはしないのか。
事務局 佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特に偏りはなく、満遍なく多くの部署から提案がなされている。 ・職員提案は業務の延長線が出てきて提案まで行われるものが通例である。ゆえに、所属する部署によっては提案しにくかったり出来なかったりする人もいるのではないかと思って伺ったところである。 ・また、個人の能力に任せた提案事業ではなかなか実を結ばないと思

<p>事務局</p>	<p>う。横断的なタスクフォースを作って政策提案や業務改善に取り組むことも検討した方が良いと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスクフォースとまでは言えないかもしれないが、現状の取組みとして、研修の一環で入庁4～5年目の若手職員5名程度でチームを組んでもらい、市の新たな施策についてチームで提案を考えて発表してもらっている。このような取組みを更に推進したり、今いただいたご意見も参考にしたりしながら制度の充実を図りたい。
<p>寺山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどういった提案がなされたのか。 ・また「優良取組アワードを新設」とあるが、現時点でどういった取組報告が上がってきているのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでにあった提案として、例えば「下水道マンホール蓋を活用した事業者向け有料広告」に関する提案や、森林環境譲与税の活用と県産木材を使用した住宅建設の推進に関する提案などがあった。近頃世の中でも話題になっているが「カスタマーハラスメント対策」に関する提案も出ている。その他、DXに係る提案等で事業化まで進んだものもある。 ・「優良取組アワード」は職員提案とは別で進めている取組みで、他の模範となるような各所管課の取組みについて年度末に表彰する予定である。今年度から開始した事業であり、現状どのような報告が上がってきているかまでは把握していない。
<p>橋本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目(19)「自主財源確保の取組強化 ②ふるさと納税」に関して、取組実績に「新規ポータルサイトとして三越伊勢丹ふるさと納税を導入した」とある。これには事業者がどれだけ参加しているのか。 ・また、下半期の取組予定で新たに「KABU&ふるさと納税」や「ふるラボ」を導入する予定とある。こういったポータルサイトを引き続き増やしていく方針なのか確認したい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「三越伊勢丹ふるさと納税」は他のポータルサイトと異なる特徴として、三越伊勢丹のバイヤーが直接回って選んだものしか掲載しない仕組みを構築している。よって今日現在では、掲載されている事業者は行田市内では2事業者のみとなっている。このように、三越伊勢丹ふるさと納税は他のポータルサイトとは抱えている客層が異なる

<p>橋本委員</p>	<p>るものと捉えて導入したものであり、引き続き進めてまいりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータルサイトを増やす方針についてだが、現時点では9つのポータルサイトに掲載しており、昨年末にはアマゾンが参入し、大きなニュースにもなったところである。数あるサイトの中でどれを導入するか、それぞれの特長や効果を検証しつつ、効果があると思込めるものについては今後も増やしていきたいと考えている。 ・ふるさとチョイスや楽天、この辺りが高いシェア率を持っていると理解しているが、それらを網羅している中でなお新しいポータルサイトを次々に取り入れていっても効果が薄いのではとってしまう。ふるさと納税の取組みとしては他に行田タワーや貴婦人のプロジェクトなど宣伝効果が高い取組みもあるので、そちらの方により注力していくことも検討してもらいたいと思う。
<p>寺山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそもここに記載されている「行田タワー全国発射プロジェクト」とは具体的にどういったプロジェクトなのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年11月に公開された映画「翔んで埼玉」の2作目で、作中に「行田タワー」として登場して通天閣を迎撃する場面がある。これを機に本市のタワーが注目されたわけだが、そもそもこのタワーには正式名称がなかったため、せつかくなら作中で使ってくれた「行田タワー」をそのまま正式名称にして、映画同様にタワーに看板を設置して全国に発信しようと考えたことがきっかけである。そのための経費として2400万円を計上し、昨年10月から寄付を募ったところ、結果的に2400万円以上の申し出が集まったところである。なお、寄付者の大半は市外の企業や個人の方々である。
<p>長岡委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目(5)「行政情報発信の推進」に関して、LINEなどで火災発生情報の通知が度々来るが、誤報が多いように思う。通知があった場所が近ければやはり気になって外に出るが、その後「誤報でした」と訂正が来る。通知する基準など、見直した方が良いこともあるのではと感じる。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災の通報があると、まずは行田市消防本部指令室から市民の皆様宛てに速報を届けることになっている。そして実際に現場に出動して、結果的に誤報だった場合に「火災ではありませんでした」と報告している。人命に係る内容であることから、現場を見てから通知

<p>福原委員</p>	<p>しては遅い。通報があった段階で速報を出す、火災でなければ再度お知らせする。これはそうする他ないを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ取組項目（５）の関係で、見せ方の問題で一点意見したい。 ・成果指標の「市公式LINE登録者の50歳未満の割合」の令和5年度実績が「51.2%」で目標には届いていないと説明があったが、そもそもその上の成果指標である「市の公式SNSの登録人数」の目標が32,500人であったことを鑑みると、32,500人に対する50歳未満の目標値64%は20,800人となる。令和5年度実績で既に全体で40,311人の登録者がいることを考えると、その51.2%が50歳未満なのであれば、計画どおり進捗していると言えるのではないか。若い方への情報発信を進めるために定めた指標なら、この目標の見せ方自体を変えてもいいのではないか。もし変えられなければ、せめて「参考」としてそれらの数字を入れて表現するなど、若い方にも普及していることをもっと主張して良いと思う。 ・また、今の若者はLINEよりYouTubeやXなどを多用していると感じる。行田市でもこれらのツールからそれぞれ頻繁に発信していると思うので、そこの数的情報を追記すると、よりこの取組みをアピール出来ると思う。
<p>寺山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目（４）「GIGAスクール構想の推進」に関して、前回委員会でも言及したが、非常に厳しい環境にある子どもたちに対して1人1台パソコンを整備したと、これは本当に上手くいっているのか。指標を見る限り、あまり上手くいっていないのではと不安を感じる。市の職員の方々ももっと教育現場に出て行って、実際のスクールの状況をしっかり見た上で取り組んでほしい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度までの成果指標実績が良くないことは事務局としても気にかけている。一方で、授業支援システムの実用が9月から開始され、現場からはうまく活用出来ていると聞いている。それに伴って令和6年度の実績値も良くなるものと捉えてはいるが、引き続き注視していく。現場を見て状況を把握することについては、所管課に申し伝える。
<p>寺山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に厳しい環境にある子どもたちにとっては、DXの環境が整備

	<p>されたとしても活用する意識が芽生えにくい。国家的な課題ではあるが、そういった貧困世代に対して、今後益々進むデジタル社会の中でしっかりついていけるような、それぞれに持っている可能性に蓋をすることがないような環境づくりを進めていただくことを期待する。</p>
塩原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ取組項目に関してだが、成果指標の「授業中にICTを活用して指導する能力」が令和5年度実績で81.5%とある。実際のところ本校（進修館高校）のみで捉えたらそこまで届いていない。先ほど説明のあった授業支援システムについても、50代の教員がなかなか活用出来ていないため、50歳以上の教員を対象に研修を行っているところである。参考までに、年代別の教員の取組状況であったり、全体ではなく年代別で分析が出来ているなら教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・年代別の分析については所管課に確認していないが、それに関連した内容として、現在、授業支援システムの実践事例集を作成しており、実際に授業でどう活用しているかを蓄積し、教員間で共有し活用拡大を図る取組みを進めているところである。昨年9月に実装されたばかりなので、これらの取組みを通じて更に活用が伸びていくと考えている。
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目（3）「使用料・手数料等のキャッシュレス決済の拡大」に関して、下半期の取組み予定に「市立保育園3園にキャッシュレス決済を導入予定」とある。これは何の支払いにおけるキャッシュレス決済なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・給食費の支払いに関するキャッシュレス決済である。
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。トラブル等がないのであれば保護者としては大変便利と思う。こういった取組みは引き続き進めていただきたい。
村島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目（5）「行政情報発信の推進」に関して、「IGZOGYODAプロジェクト」の配信動画を拝見したが、私には意図が分からなかった。市のイメージアップなのか、住民を増やすことなのか、ターゲットは誰なのかを教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・このプロジェクトは市の情報を幅広く発信する手法の一つとして始めた新しい取組みで、昨年度から取り組んでいる。市外の方々に行

	<p>田市の魅力をお伝えする内容もあれば、市が行う様々な業務について、分かりやすく市民の皆様にご理解いただくためのツールとして活用している側面もあり、様々な目的を持って動画配信をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このプロジェクトの特徴は、発信している動画全てが、若手職員の発案と編集により発信されているところである。自身が業務上携わらない分野にも積極的に関わって若手職員同士が意見を出し合いながら自発的に取り組んでくれているため、出てきたアイデアをつぶさないように進めている。市役所業務ではどうしても尖ったアイデアを出しにくい雰囲気があるものだが、それでもやはり面白くて魅力を感じられる発信をする、若手職員の発想を生かした発信をしていきたい。 ・Y o u T u b eでの配信なので、動画としての評価は視聴回数でダイレクトに分かる上、見てくださった方がどこで視聴を止めているのか、細かいところまで分析をしている。このように1本1本検証して次の動画作成に生かしているところである。
寺山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目（19）「自主財源確保の取組強化③」に関して、遊休市有地売却に向けた様々な取組みが記載されているが、行田の歴史を崩すような売却にならないよう、気をつけて進めてもらいたいと思う。企業を誘致して新たな会社が来た時に、その会社は行田の歴史や文化に寄り添ってくれる会社なのか、しっかり見極めて進めてほしい。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・他に質問や意見はないか。 <p style="text-align: center;">（特に発言なし）</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、議事（2）「今後のスケジュール」について、事務局に説明をお願いします。
事 務 局 議 長	<p>（2）「今後のスケジュール」について、資料2により説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの説明に対し、各委員から意見があればいただきたい。 <p style="text-align: center;">（特に発言なし）</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・特にないようなので、本日の議事は以上とする。 ・これにて、会議の進行を事務局にお返しする。
司 会	<p>4 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、令和6年度第2回行田市行政改革推進委員会を終了する。